

イデックスオイルレポート ~For a week~

株式会社新出光

【NY原油 概況】

●20日のWTI原油は、前日比0.04ドル安の66.39ドルとなった。
 トランプ米大統領は20日、イラン核開発問題を巡る同国との協議で圧力を強めるため、限定的な軍事攻撃を検討していると表明。イランへの攻撃の可否を10~15日以内に決めると表明した。

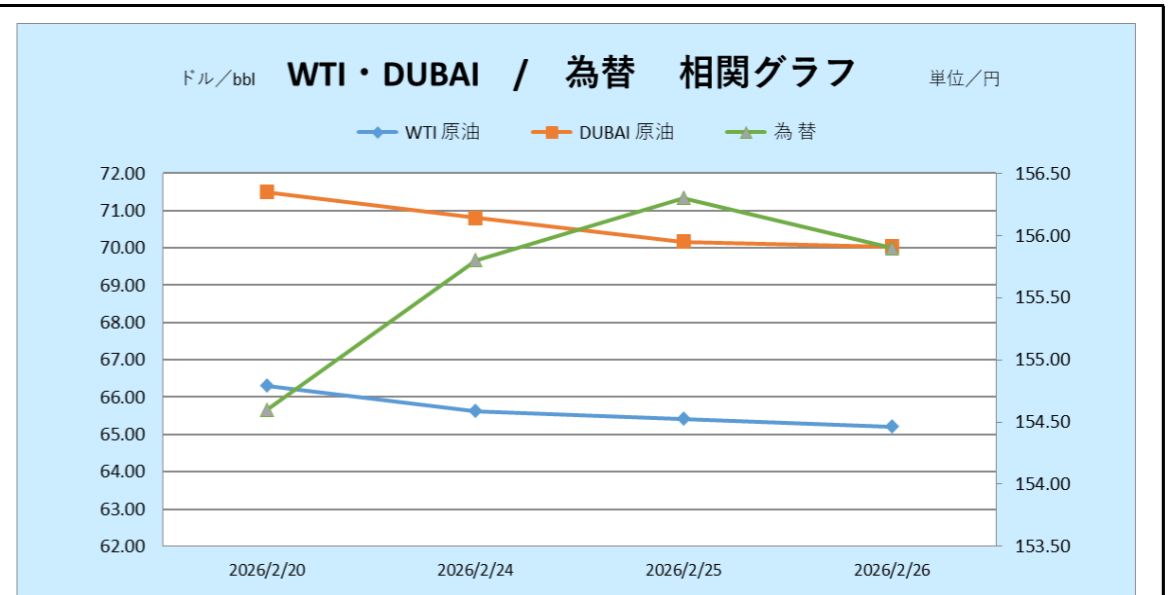
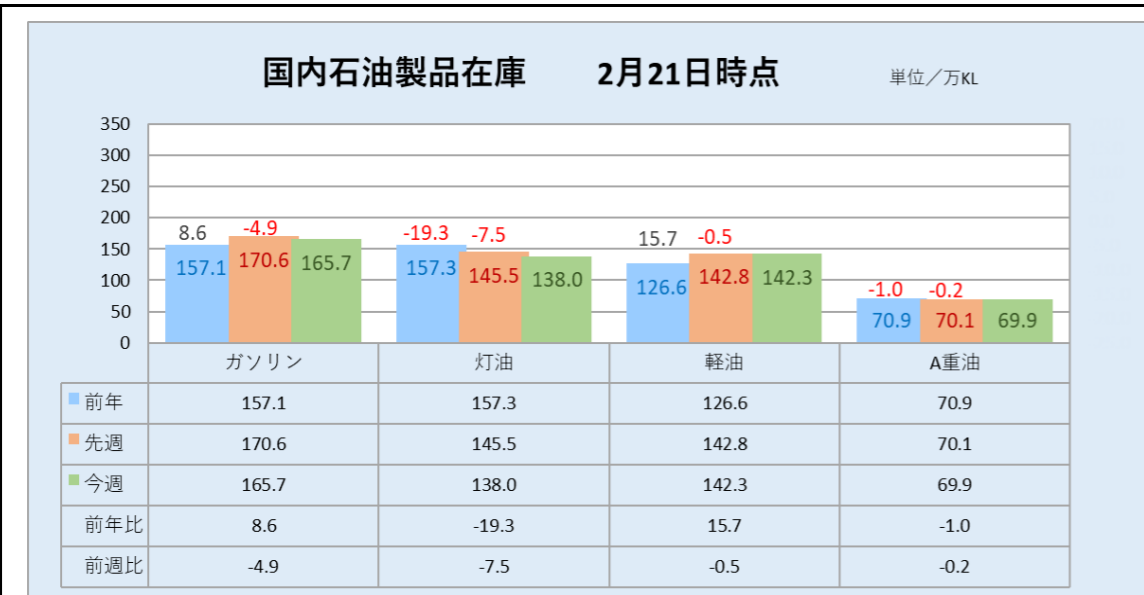
●23日のWTI原油は、前日比0.17ドル安の66.31ドルとなった。
 イランの核開発問題を巡り米国がイランに譲歩を迫るため、同地域で大規模な兵力を展開する中、米高官は23日、米国のワイトコフ中東担当特使とトランプ大統領の娘婿クシュナー氏が26日にスイスのジュネーブでイラン代表団と会談をする予定だと明らかにした。

●24日のWTI原油は、前日比0.68ドル安の65.63ドルとなった。
 米国とイランは26日、核開発問題を巡る高官協議をスイスで開く予定。トランプ米大統領がイラン再攻撃を警告する中、米務省は23日、在レバノン大使館の一部職員や家族への退避を指示。一方のイランは中国から対艦巡航ミサイルを購入する契約で合意に近づいていると伝わり、市場では次回協議が外交継続か軍事衝突かを左右する重大な局面になるとして警戒姿勢が広がっている。

●25日のWTI原油は、前日比0.21ドル安の65.42ドルとなった。
 米エネルギー情報局(EIA)が午前公表した週間在庫統計(20日までの1週間)によると、米原油在庫は前週比1,600万バレル増と、市場予想(150万バレル増=ロイター通信調査)をはるかに上回る積み増しとなった。トランプ米大統領は24日の一般教書演説で「世界のテロ支援国が核兵器を持つことは決して許さない」と述べ、イランの核兵器保有阻止への決意を再び表明。

●26日のWTI原油は、前日比0.21ドル安の65.21ドルとなった。
 「OPECプラス」が4月に原油生産量を日量13万7,000バレル増やすことを検討中と報じた。これを受けて、需給の緩みが警戒され、原油が売られた。米国とイランは26日、スイスのジュネーブでイラン核開発問題を巡る高官協議を開いた。仲介国オマーンのバドル外相はSNSで「大きな進展が見られた」と表明。

2026/2/27 12:00現在 WTI原油 65.0ドル 為替 1ドル 156.81円



【次回価格変動予想】

3/5~3/11

【市況総括】

品目	変動	予想
ガソリン	→	±0 ~ 0.5
灯油	→	±0 ~ 0.5
軽油	→	±0 ~ 0.5
A重油	→	±0 ~ 0.5
LSA	→	±0 ~ 0.5

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「+2.5円」、補助金は、全油種「±0円」、都合、全油種「+2.5円」の改定となった。
 《来週》次回の元売り改定は、原油コストは「±0円~+0.5円」、補助金は「±0円」で、都合ガソリン「±0円~+0.5円」の改定予測となっている。

※原油コスト「±0円~+0.5円」
 ※補助金 前週比±0円
 ※現時点での予測です。

【次世代エネ コラム】

< 三菱重工、CO2・水・電気から液体燃料を一貫製造 >

三菱重工業は2025年2月13日、二酸化炭素と水、電気のみを原料として液体燃料を一貫製造する実証プロセスに成功したと発表した。この技術の核心は、固体酸化物を電解質に用いて高温で電気分解を行う「SOEC共電解」にある。

同社が独自に開発した円筒形セルスタックを活用することで、次世代燃料の原料となる水素と一酸化炭素を同時に生成し、装置の簡素化と高いエネルギー効率を両立させた。さらに、生成された原料をフィッシャー・トロプシュ反応によって合成した結果、持続可能な航空燃料であるSAFに適した成分が含まれていることが確認された。このプロセスは、航空機向けのみならず、自動車や船舶用のガソリン、ディーゼル、メタノール、さらには都市ガスの原料となるメタンの製造にも応用が可能であり、脱炭素社会の実現に向けた極めて多様な選択肢を提供する。従来の製造手法と比較してコスト競争力に優れている点も大きな特徴であり、分散型電源や再生可能エネルギーとの組み合わせによる地産地消型の燃料供給モデルとしての期待も高まっている。

三菱重工業は今後、今回の実証で得られた知見を基に、2030年頃までに500キロワット級のシステム実証を完了させ、2030年代中の商用化を目指す方針です。この革新的な一貫製造技術の実用化は、エネルギーの安定供給と環境負荷低減を同時に達成するための重要な足掛かりになると展望される。